

予報期間 8月18日から8月24日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 期間を通して太平洋高気圧が日本の南に張り出す。
- 20日から21日にかけて、低気圧が北海道付近から千島近海へ進み、前線が北日本を南下する。
- 22日から23日にかけて、低気圧が中国東北区から北海道付近へ進み、前線が北日本付近へのびる。
- 24日は、低気圧が北海道付近から千島近海へ進んで不明瞭となり、前線も東北南部付近に南下して不明瞭となる。

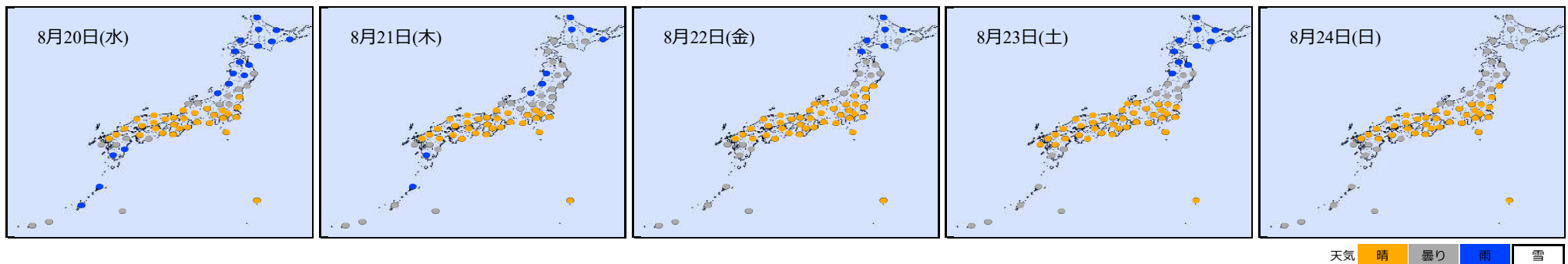
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 20日頃は、北日本日本海側では前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 北日本から西日本にかけては気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

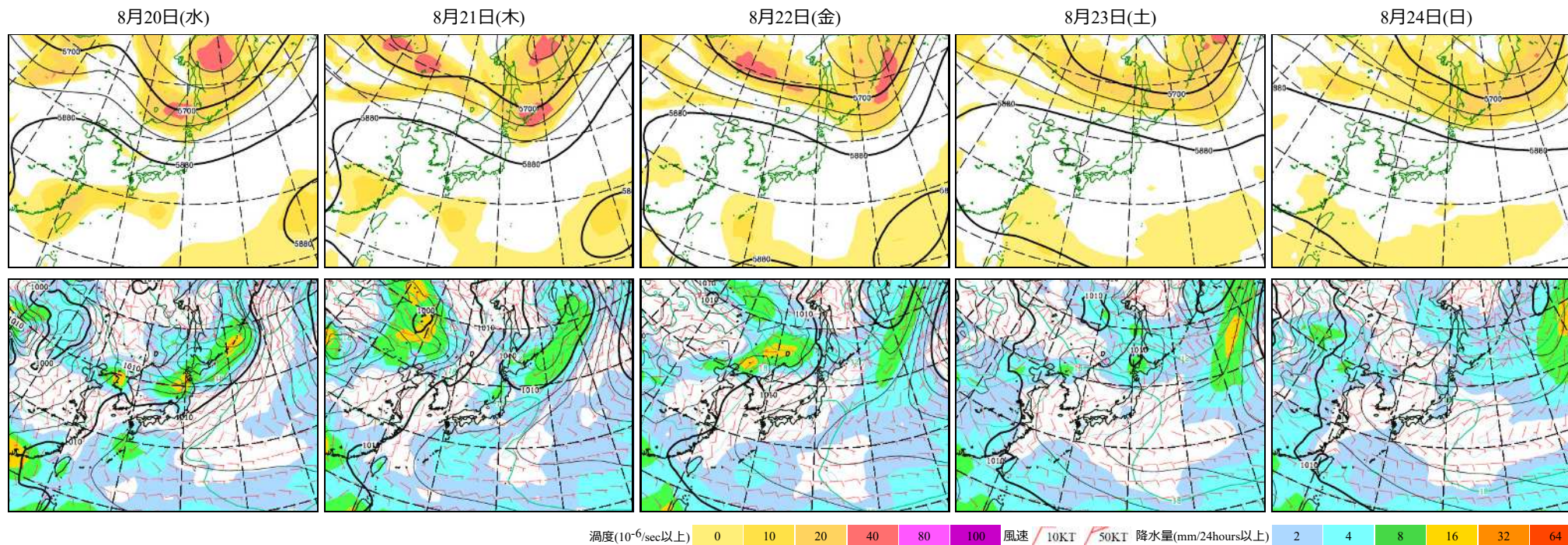
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

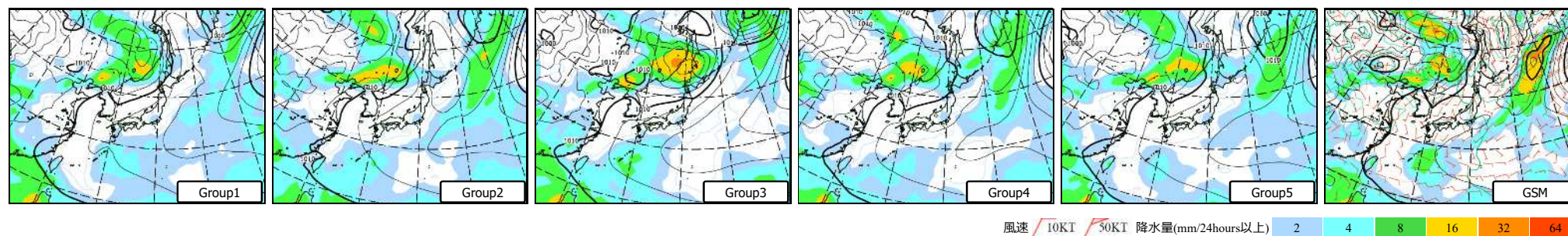


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本は、晴れや曇りの日が多いが、20日と21日は日本海側で雨の降る所がある。
- 西日本は、晴れる日が多いが、20日と21日は太平洋側で雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく20日と21日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月22日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間の前半は初期値変わりが小さいが、20日から21日にかけて北海道付近を通過する低気圧が明瞭となった。23日頃に日本海北部に進む低気圧の東進が遅くなった。
- スプレッドは小さく、各特定高度線のばらつきも小さい。各モデルとも大きな違いはないが低気圧の強さや通過するコースにはばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。